

第1号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 215-0004  
 住 所 神奈川県川崎市麻生区万福寺3丁目1番2号  
 氏 名 小田急商事株式会社  
 代表取締役社長 井上 剛一 印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第9条第1項(同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。)の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	小田急商事株式会社		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市 麻生区万福寺3丁目1番2号		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者(任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	I	卸売業, 小売業
	中分類	58	飲食料品小売業
主たる事業 の内容	スーパーマーケット、コンビニエンスストア(食料品および衣料・雑貨の販売)		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量		1,553 k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO <sub>2</sub>
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		

※受付欄		※特記事項	※事業者番号	

(第2面)

計 画 期 間	2022 年度 ~ 2024 年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
備 考	環境への取り組みについて、ホームページに公表しております。 <a href="http://www.odakyu-ox.net/eco/index.html">http://www.odakyu-ox.net/eco/index.html</a>

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。  
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。  
3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。  
4 ※印の欄は記入しないでください。  
5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

## 事業活動地球温暖化対策計画

### 1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

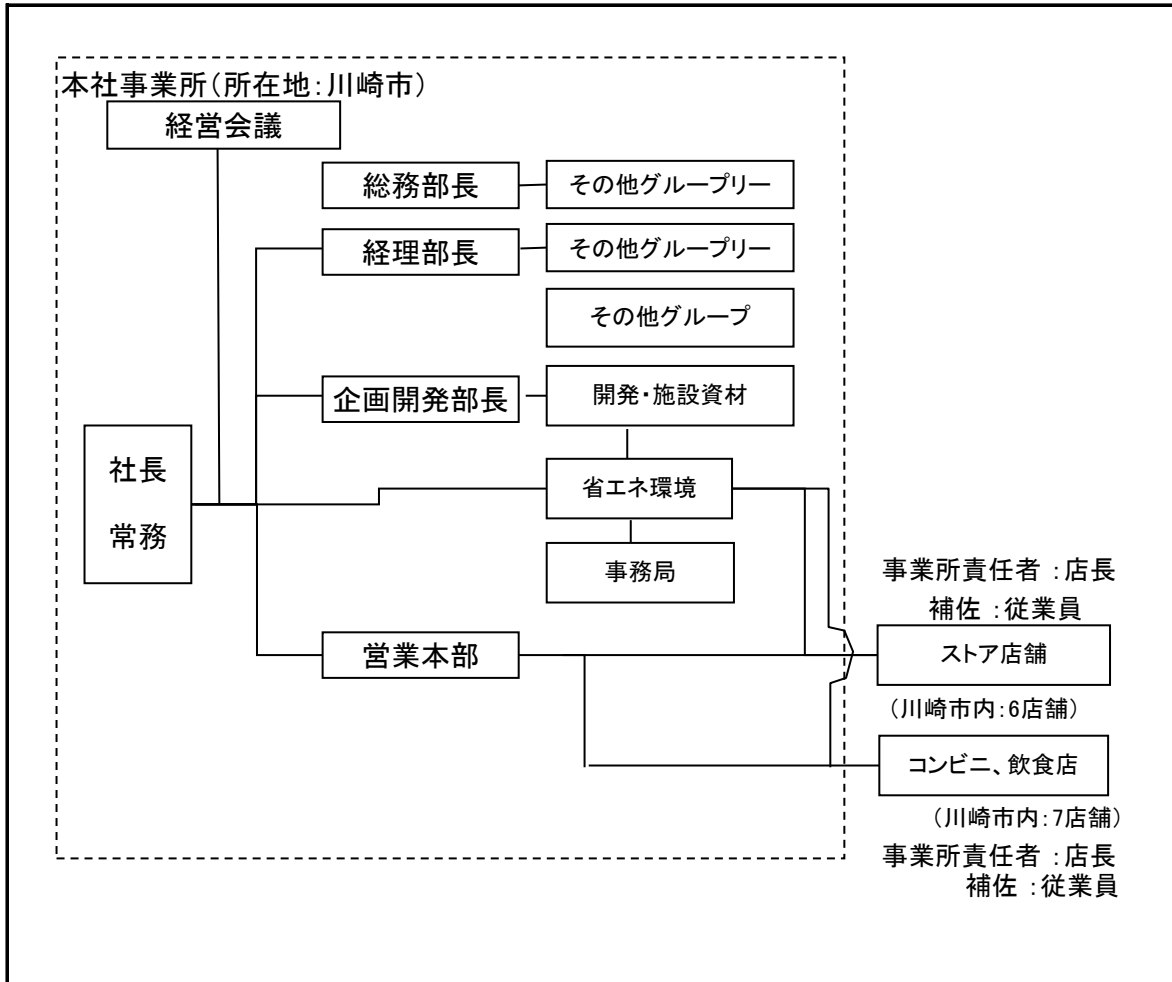
#### (1) 温室効果ガス排出量削減に向けた方針

- ・小田急グループの環境ビジョンに基づき、当社の事業内容を踏まえたアクションプランの立案、活動を推進することにより温室効果ガス排出量削減に貢献する。
- ・温室効果ガス排出量削減に関するアクションプランを全社各部門（店舗、事業所）に共有し削減に対する積極的な活動を推進する。

#### (2) 削減対策実施状況の適切な進行管理（PDC Aサイクル）を行うための方針

- ・温室効果ガスに関連した各種エネルギー使用量を店舗、事業所単位に集約する。（ストア、飲食、コンビニエンスストア（セブンイレブン）の店舗単位に集約）
- ・各店舗、事業所単位にエネルギー使用量の推移を確認し今後の対策を検討すると共に対策の効果について考察を行う。

### 2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制



3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量等

ア 基準排出量と目標排出量（（実）は実排出量を、（調）は調整後排出量を示す。以下同じ。）

		1、2、4号該当者等	3号該当者等
基準年度		2021 年度	
目標年度		2024 年度	
基準排出量		(実) 2,748 (調) 2,723 t-CO <sub>2</sub>	(実) (調) t-CO <sub>2</sub>
目標排出量		(実) 2,666 (調) 2,641 t-CO <sub>2</sub>	(実) (調) t-CO <sub>2</sub>
削減量		(実) 82 t-CO <sub>2</sub>	(実) t-CO <sub>2</sub>
内訳	対策実施による削減量	(実) 82 t-CO <sub>2</sub>	(実) t-CO <sub>2</sub>
	上記以外の削減量	(実) 0 t-CO <sub>2</sub>	(実) t-CO <sub>2</sub>
削減率		(実) 3.0 %	(実) %

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等（任意記載）

		1、2、4号該当者等	3号該当者等
原単位等の活動量			
原単位の単位			
基準年度の値			
目標年度の値			
削減率		%	%

ウ 目標設定に関する説明

排出量削減への取り組みとして販売活動のみならずお客様の購入→消費→廃棄までの経緯を見据えた省エネルギー対策を推進する。前計画年度の実績に基づき削減率1%/年を目標とする。

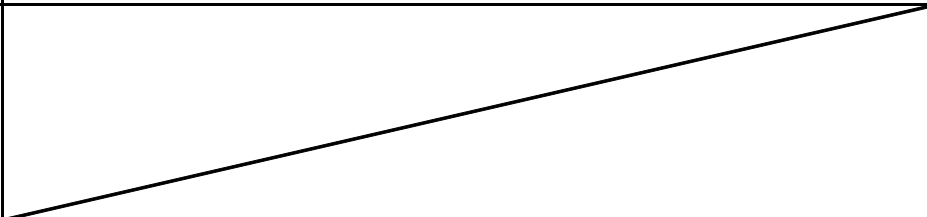
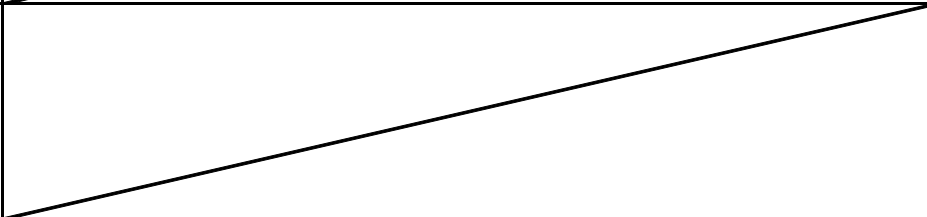
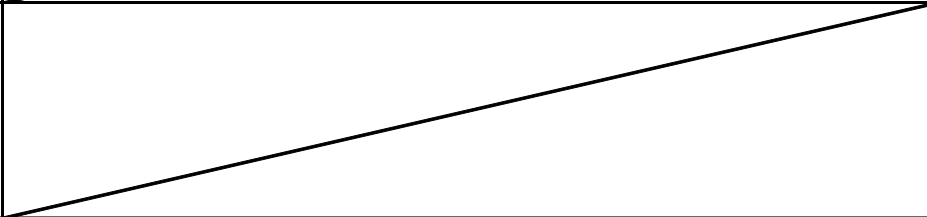
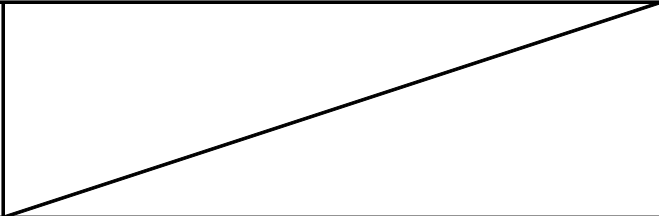
(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標（全社目標）（任意記載）

①スーパーマーケット全店で、現在無料配布しているプラスチック製品をプラスチック以外または環境に配慮したプラスチックを使用した製品への仕様変更  
 ②生鮮食品の食品内へ添付するプラスチック製のカトラリー製品を順次終了させる。

4 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 措置の内容

ア 計画期間に実施する措置の内容 (別表第1から6等を参考に記載してください。)

<p>計 画</p>	<p>店舗、事務所について以下措置を実施する。                  ・LED照明器具導入を推進する。(LED照明への切り替え)                  ・新冷媒機器採用と高効率圧縮機器の導入を推進する。                  ・空気調和の実施。</p>
<p>第1年度</p>	
<p>第2年度</p>	
<p>第3年度</p>	
<p>計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)</p>	

イ 実施済みの主な温室効果ガスの排出の量の削減対策内容

アで記載の措置内容について、前回の計画期間より継続し対策を行っております。

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 基準年度までに実施した再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(検討済みの場合は「○」、未検討の場合は「×」を記載し、検討済みの場合は検討結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	検討の有無	検討結果
太陽光	○	事業所などの電気設備補助電源として部分活用を検討中
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	×	
その他 ( )		
その他 ( )		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度

(3) 基準年度までに実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入・検討状況

(導入済みの場合は「○」、導入検討中の場合は「△」、導入予定なしの場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	導入等の状況	設備等の種類	導入等の状況
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム (FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他 ( )	
EV、PHV、FCV	×	その他 ( )	

5 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストア各店舗に資源ごみ回収BOXを設置しペットボトルキャップ等の分別回収を継続して行っております。回収された資源ゴミはリサイクル資源として買取されており、分別なく扱われる資源ゴミを削減することによりゴミ焼却処理時のCO2削減に貢献します。</li> <li>・ストア各店舗においてレジ袋削減協力店舗としてマイバックを推奨することにより廃棄物の削減に貢献します。</li> </ul>
第1年度	/
第2年度	/
第3年度	/

6 その他、地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

計 画	<p>小田急グループ各社と協力し食料品店、飲食店などより再利用可能な余剰食品を集め、養豚用に飼料化する取り組みを行っております。従来の粉状の飼料と異なりリキッド化を実現しており、製造工程で乾燥などに掛かるエネルギー使用量の削減に貢献します。</p>
第1年度	/
第2年度	/
第3年度	/

7 基準年度のエネルギー起源CO<sub>2</sub>の排出の量等の実績 (1、2号該当者等)

(1) 事業者単位

ア エネルギー起源CO<sub>2</sub>の排出量

(実)	2,748	t-CO <sub>2</sub>
(調)	-	

イ 原油換算エネルギー使用量

1,553	KL
-------	----

ウ 事業所の数

14
----

(2) 事業所等単位

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO <sub>2</sub> の排出量
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO <sub>2</sub> の排出量
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>